

自然に触れ、人に触れ、心を潤す

3年ぶりのプール開きが行われ、水泳学習がはじまりました。子どもの多くは、水泳の時間を楽しみにしています。小学校の水泳指導のねらいは、子どもに水遊びや泳ぐ楽しさを体験させると共に、水遊びでの安全に関する心得を身につけさせることです。安全に水泳指導を行うために、学校では連日の気温、水温測定、プール施設の安全管理、更衣場所などの消毒を徹底しています。

水泳の学習では、子どもの健康状態の把握がとりわけ大切です。「健康カード」を忘れてたり未記入があったりすることのないよう、ご家庭でも一緒にご確認ください。併せて、頭髮、爪なども清潔に保つようよろしくお願いします。それが安全につながります。

◇山県の自然の恵みに触れる 5年生「森と川の学校」

6月15、16、17日の3日間、山県市教育委員会主催の「森と川の学校」が実施され、5年生が参加しました。1日目は教育センターで、木や石などを使ったクラフトや火起こし体験に参加しました。市内の他の学校の子とも協力しながら、自分で選んだ活動に取り組みました。木のキーホルダー作りでは、時間いっぱい使って、キーホルダー作りをしました。火起こしでは、煙は出るものの、なかなか炎がでない現実に苦戦しましたが、仲間と力を合わせて取り組みました。

2日目は、川の活動。川を対岸まで渡るには、どんなルートをとるとよいかを考えました。川底をのぞき生き物観察もしました。「こんなきれいな川があるんや！」とふるさとの自然に感動しました。

3日目は、森の活動。美山の野山を散策し、自然の豊かさを実感しました。午後からは、最終ミッション「火をおこし、最高に美味しい焼きマシュマロを作れ！」に挑戦しました。

自分たちで、やってみて・考えて・工夫して・何度も何度も挑戦して、教室ではできない学習体験となりました。

※6月の学校生活の様子は、梅原小学校のホームページに掲載していますので、ご覧ください。



◇マスク着用の影響 ～マスクがコミュニケーションの壁に～

コロナ禍でマスクの着用が続いたことで、「喜怒哀楽が分からず、友達とのけんかが多くなったという事例が幼児から小学校低学年の児童で増えている」と指摘されています。ある学校の話です。休み時間に、1年生の教室で友達同士のけんかが起こりました。たまたま手がひっかかったことに「ごめんね」と謝ったものの、マスクをしていたためか相手に伝わらず、けんかに発展してしまったというのです。ささいなトラブルはよくあることなのですが、マスク越しの生活はいつもよりコミュニケーションに苦勞する場面が増えているといわれています。

4歳から10歳くらいの子どもの脳は、「相手の視点に立って考えること」を発達させる時期だといえます。コミュニケーションを通して、相手はどう思っているのか、自分はどのように振る舞ったらいいのかをイメージする能力が芽生えてきます。マスクが安心して外せるご家庭内においては、家族などが積極的に表情や気持ちを伝え合う機会を作っていただくことが、児童の発達の助けになります。